





毒くらふものごとく思ふは世の別也  
海よりくく幕合ふ合う海くふ  
ものものさしものものさし始の  
先念のらせやいものさくは娘  
一子供お習はかしののさしお習  
おくは娘お習はかしののさしお習  
我法の子と思ふ日子念のうらりの事

なむもも程河家の外りのがま  
又とは神純あまのさし一甚をと親  
なむのさし一さし一おさし一後  
滅の信も得道のさし一はるはる  
りけりり神のさし一はるはる  
のさし一はるはるはるはるはる  
おさしは娘の事程河家の事思ひを

天照を邦東照大権現のは恩徳を於世  
比等は後等もとなふ是を世に於て  
子供をとりまじせ付るは此の如く  
進く信りもりよく徳の信りも於て  
よきよき先世の体は玉孫様とは  
し波せしやうこふやちみよは後徳の  
ふや天満宮様は通徳とは誠の如き

ふや

一雷は母を後徳はまじりよのよき一雷の信  
は信りよめは信りよのよき一雷の信りよ  
かものなやもあひよき雷信りよは信り  
動き圓りよは信りよのよき一雷の信りよ  
の信りよめは信りよのよき一雷の信りよ  
の信りよめは信りよのよき一雷の信りよ

一 是支親のほしきまゝのふりしつゝをまて  
は用じの女を世よりいふ命の事と云  
し書ふは女を慶治所度よりは礎受  
ふ女

一 岩戸用と程細くも付るはさき  
ふ女を慶治所度よりは女にたり  
ちの天の岩戸を今もたに傳

くあつるたりのたからむやうに  
入ぬれどおのまをぞつらぐい  
まもほむもあゝ志のまのまよ  
目知るは老うて思ふまをわの  
ちうしられしはあつるのよ我  
まのまのおもひは胸のけつ  
しからむまをさるるまを

とまよふふりすくくたの神の

まに〜まのせなん

吐苦加美信身多女

一は月の中の花は〜よののまよふ

はす越也も信のゆは福とさづけ

ゆゆなくゆ保〜ながらる悪まをてゆ

出物とまよふゆは神の類よ〜女世後

諸地は越ふりとお徳をなす〜ゆは

越えつゝま〜よは思ふまふ又

若くは相のかりうゆは美は教

もはす越ふ女は善〜よは

己かり若くはは性〜女ま〜ゆ

ゆまをはす越ふ女は〜ゆ

ゆ〜ゆ

三月

藏

武流の

明治二十年四月廿三日版權免許  
明治二十年十二月 日出版

神道大成教禊教社長

編輯人 權中教正

横尾信守

出版人

淺草區南元町四十九番地

賣捌元

禊教横尾社

淺草區南元町四十九番地

10

108



